

新人戦報告書（B班）

平成 17 年 6 月 26 日

1 はじめに

今回、望月ゼミと泉ゼミと新人戦のテーマとして、現在深刻な社会問題となっている年金未納問題についてのディスカッションを行いました。当日の流れとしては詳細は以下で示すとしまして、大まかな流れとしては、はじめに各班それぞれの主張をした上で、それに対する質疑応答を行ったうえで、ディベートという形式でまとめ、普段経験することの出来ない他ゼミとの交流という充実した時間がすごせました。

2 当日までの流れ

論文作成という作業が各自初めてだったという点もあり、まず何をしたら良いのかが不明瞭という状況でしたが、各自それぞれが年金について勉強し、大まかな流れが統一されたうえで各自分担に沿って、論文という形に出来ることが出来ました。

また、泉ゼミさんとの議論をするまでのすりあわせについてですが、早い段階でお互い相談しあっていたという点もあり論点のずれは中間レジュメの段階においても、予想よりは少なかったです。しかし一方で両ゼミそれぞれのカラーがあるために、論文構成の仕方に大きな違いがありました。具体的には、望月ゼミは未納問題を起こしている一つの問題に対して一つの解決策を導きだしそれを発展させていくという趣旨で論文を作っていたのに対して、泉ゼミさんの論文構成としては未納問題のいくつかの問題を挙げ、それぞれにいくつかの解決策を提示させていくという形をとっていた為若干のずれが生じてしまいました。

以上の理由からそのずれを修正することが出来ずに、具体的にどの問題を扱うかについて限定することが出来ずにディスカッションとしては進行しにくい状況になってしまい、結局それぞれ別々の政策について見ていくことになってしまい、当日を迎えました。

3 当日の流れ

結論としては、両ゼミとも共通して現在の政策のままでは、年金未納は解決することはできないということで、それぞれ未納問題を解決する為に、どのような政策を採るべきかについて主張するという形で進行していきました。しかし危惧していたとおりそれぞれの意見をディスカッションという形での議論は難しいということで、ディベートという形での開始となりました。

具体的に、望月ゼミとしては年金未納の問題を保険料と給付額の不公平にあると考え、その問題を解決する為には、現在の事実上の賦課方式である現在の方式を、完全積立方式が望ましいと結論付け、その上で、少子高齢化の進む状況を考える上で積立方式への以降は避けることの出来ないものと主張しました。

また泉ゼミさんの主張は、年金未納を解決する為には税方式の導入によって強制的に徴収させてしまうことによってなくなると結論付け、そのために、各収入ごとに徴収率を変化させ、給付額を一定に保つようにすべきであると主張しました。

これらの主張に対する各班の意見をまとめておきますと、積立方式への移行の際に伴う現役世代への二重の負という問題がありこれ以上現役世代への負担増は望ましくなく、本当に年金問題が解決するのかという疑問がある。一方では、安易な税方式の導入は各世代での不公平感、税率が少子高齢化などにおいて一定に保てず短期的に替わってしまい、それがますます不公平感を増長させてしまうといく意見がでました。それぞれに、短所・長所がありどちらが良いとは最終的には言えずに終わってしまい、年金問題の難しさについて改めて感じさせられました。

最終的には短期的に見た場合は税方式が有効であり、長期的に見た場合積立方式への移行が望ましいということで落ち着きました。

4 総括

はじめての他ゼミとの交流ということもあり、すり合わせることの難しさを感じた新人戦だったと思います。また、知識不足のために、論文が浅くなってしまったため、自分達の主張を推す要素が足りなかったと思います。また、具体的な数値をあげることが出来なかったという反省点も挙げられました。これらの今回の反省を生かすことでこれからの議論において修正・生かしていきたいと思います。

4.1 各個人の感想

(小野)全体を通して、視点が偏っていたことに今回気づかされました。もっと、より多くの可能性を客観的に見ておく必要があったとおもいます。また、ディスカッションにおいて、自分の意図を相手に伝えることができなかったため、相手に上手伝えるためのアウトプットの難しさが分かりました。他にも、論文において理論を重視するあまり具体性を欠いてしまったことも反省の一つです。具体性の弱さを泉ゼミさんからも指摘されたので、これからは理論と具体性の両方からのアプローチをしていきたいと思います。良かった事としては、漠然と考えていた年金制度がより鮮明になり、身近に感じる事が出来ました。加えて、他ゼミのカラーを知ることが出来たのでこれらを生かしていきたいと思いました。

(小野寺)私が一番感じたことは、新人戦ではテーマを決め、レジюмеを作り、論文を書き、討論してといくつもの段階を経て少しずつみんなで見解を形にすることが経験できたのがよかったです。まず、レジюме作りや論文作成の段階では論文の書き方や資料の集め方、探し方を学びました。自分では気がつかなかった不足点や視点なども分かりました。そうして迎えた新人当日は、自分の討論する力のなさや十分な下調べができていなかったことを痛感しました。。今感じたことを忘れず、また今後につなげることができるようにしていきたいと思います。

(岩瀬) 今回新人戦に参加してみてよい点・悪い点がたくさんありました。まず、論文の書き方や資料集めなど大変でした。しかし、4人で分担したので論文というには量的に足りなかったため論文を書いたとは言えないかもしれませんが初めてにしてはまあまあと思います。また、レジюмеや論文作成を通してより仲良くなれたと思います。また、初めて他ゼミとの交流ができ、泉ゼミ生はみんな積極的だったので見習わなくてはと感じました。次に、積極的に発言することができなくて受身になってしまいました。また、論文の内容が浅く具体的なデータが足らなくて実際の数値などもなく改善す

べきだったと思います。今回の新人戦で学んだことをこれからの勉強に生きるようにしていきたいと思います。

(鈴木) 新人戦を終えて、いろいろな経験ができました。まずよかった点として、はじめて2年生で論文を書いてみて、論文の書き方などが学べたこと、年金について詳しく勉強できたこと、また一緒にやったみんなの知らなかった部分やよい所を見つけられたこともあります。反省点としては、自分たちの考えや論文において、見落としていた部分がたくさんあったことです。理論に偏りすぎて具体的なことをあまり考えていなかったり、相手のゼミの方から質問されてもすぐに答えられないことが多かったです。そのため発言が少なくなってしまいました。また内容としては年金の制度にばかり頭がいつてしまって、本来の論点である「どうしたら年金未納がなくなるか」ということから少しずれてしまっていたのかなと思いました。新人戦に参加することで初めて他のゼミの人たちと交流ができて、相手の意見を聞き、自分に足りなかった考えなども知れてよかったです。これをこれからのゼミ活動につなげていきたいです。

以上